



アートワークの作成にかかっていた時間が 80%も削減できました



マーケティングコミュニケーション部門
コンテンツクリエーションマネージャー
Michael Bush 氏

「導入から管理までがとてもわかりやすく、Memsourceは使うのが楽しいツールです。私たちデザイン部門の仕事であるアートワークの翻訳とローカライゼーション作業を効率化するためにMemsourceを導入しましたが、効果は期待以上でした。このツールなら研修の時間がほとんどかからないので、今後は他部門の翻訳作業にも使ってもらおう予定です」

パートナープロフィール

FUJIFILM

イギリスのケントにオフィスを置く富士フイルムのマーケティング・コミュニケーション部門グラフィック課の業務はヨーロッパ、中東、アフリカ地域を対象としたマーケティングツールを作成することです。マーケティングツールと一口にいても、印刷物、オンラインチラシ、スマートフォンやタブレット向けのビジュアルコンテンツ、各種キャンペーンや展示会用のパネルからマイクロサイトまでその種類は多岐にわたります。

Michael Bush氏が率いるチームはそれらのコンテンツ制作と各言語へのローカライゼーションを担当しています。

アートワークをいかに効率的に多言語化できるかが、彼のチームの生産性に直結する課題でした。

Michael 氏が抱えていた課題

グローバルに展開する同社にとって、マーケティングツールは英語で制作したら完了というものではなく、それぞれなんと約 15 カ国語にローカライズする必要があります。これは非常に大変な作業です。

Michael 氏のチームの従来のやり方はアートワークのファイルを各国の支社に送付し、現地の担当者がデザイン会社に翻訳とアートワークを外注するというものでした。しかしこの方法では限られたリソースで全ての広報資料のローカライゼーションを行うことは難しく、多くの広報資料が英語のまま使用されていました。当然ながらこの状況は好ましいものではありませんでした。

まず試したのは、PDF ファイルやテキストファイルを翻訳者に送付し、返送された訳文を InDesign のアートワークに手作業で貼り付けるという方法でした。多くのマーケティングツールには図表やグラフが含まれており、これらを適切に訳文に置き換えるのは 1.5 時間程を要すとても手間のかかる作業でした。Michael 氏はこの工程を短縮するために、様々なアプリケーションを徹底的に調査と検証をした結果、Memsource の採用を決定しました。

Adobe InDesign との連携

Michael 氏のチームが作成するアートワークのほとんどは先述の通り InDesign で作成されており、idml というファイル形式で保存されます。

Memsource ならこの idml ファイルの原稿をそのままアップロードして、xliif のバイリンガル形式で翻訳対象文章を表示することが可能です。翻訳作業が完了したら、訳文を反映した idml ファイルが自動的に作成されるので、デザイナーの作業はテキストボックスに合わせて訳文を調整するといった最低限の作業で事足りるようになりました。

Memsource の導入後、チラシやプレゼン資料を別の言語に置き換える作業に今まで平均で約 90 分要していたのが、なんと 15 分にまで短縮されました。この劇的な効果により翻訳とローカライゼーション作業の内製化が可能になりました。とても複雑なプロセスであった各言語への翻訳が、Memsource を軸に作業を進めることにより、オリジナルコンテンツを作成する作業の延長線上のものとなったのです。

翻訳メモリの活用で更なる効率

さらに、Michael 氏のチームでは翻訳メモリの活用を進めています。ある製品について各種マーケティングツールを作成する際、フォーマットは違っていても内容には重複が多く見られます。例えばチラシの翻訳が完了したら、同じ製品についてのプレゼン資料の 30 ~ 40% は翻訳メモリから自動的に訳文を生成できます。これにより社内翻訳者の貴重な作業時間を大きく節約することが可能になりました。翻訳メモリは時間を経るにつれどんどん向上するものですので、この効果がさらに増大することに Michael 氏は期待を寄せています。